

# いなほ

第113号

2021年6月20日

NPO 法人 萌

代表 波多江文哉

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B型事業所 工房いなほ

相談支援事業所 ふかや

グループホーム 独歩

TEL 045-443-7416

URL <http://www.mo-e.jp>

## 2021年度の基本方針

NPO 法人萌が事業を継続して行うには利益を出し続ける事業構造に転換していくことが不可欠である。また福祉事業と就労支援事業の両輪がバランスよく運営され、更に職員に法人の理念が継承され、支援が受け継がれることも不可欠の要素である。

今年度にもまず取り組まなくてはならないことは、昨年度から準備してきた運送業を開業し軌道に乗せていくことである。運送事業の開業は、当法人が陥っている財務構造を転換していく事業となるからである。当初の予定から遅れてはいるが本年度中に開業の目途が立った。

福祉環境は著しく変化している。今年の2021年2月に3年に一度行われる障害福祉サービスの報酬改定が行われた。就労継続支援 B 型では、工賃と一般就労を軸に単価設定が行われた。すなわち、平均工賃が高く、企業就職した利用者数が多いほど報酬単価が高いということである。平均工賃が低く、企業就職の数が少ないと報酬単価が低くなる。

就労支援事業の一つであるパレットの業界では、若い人材が不足し、事業が難しい声も聞かれ、当事業所に業務請負や就労の話がかかる状況も生まれている。今後の福祉事業においては入口から出口までの流れを作っていく必要がある。またパレットの位置づけも工賃の収入という位置づけから、パレット会社への就職を目指す職業訓練的な場へ変化していく必要がある。入口の支援を充実し、生活の安定を図りその上で自立に向けての相談や心理教育等の支援を行い、自立していく意識の芽生えや自分の人生を一つ一つ決めていく機会を増やし、自立後に自立生活を支える支援も必要となる。これらの支援を行うには人材育成は欠かせない。

人材育成は本格的に取り組んでいく必要がある。「経営は人をして行う」と言われるように、当法人の事業を継続して行くためには、法人の理念や支援を受け継ぎ、引き継いで行くためには人材の育成が不可欠であり、育成無くして成長は期待できないと思われる。

昨年度開所した指定一般相談事業の新規利用者の確保は、現在実施している計画相談事業に貢献するとともに、横浜市では未だ指定一般相談は少なく、本格的に行っている事業所も少ないことから、本事業を行っていくことは横浜市での先見的な取り組みとなると思われる。また指定一般相談事業は医療機関や地域住民、不動産とも関係を必要となり、地域づくりという意味でも重要な事業と思われる。(理事長 波多江文哉)

## 萌日記 2021.5.21～6.20

---

- ・グループホームを移動した利用者がいます。生活上のことも含めて会長や職員が支援を続けています。
  - ・戸塚事務所で野菜販売を行ないました（5/25）。事務所の所在する地域とのつながりも生まれつつあります。今後も不定期に続ける予定です。
  - ・ある就労支援センターより、見学をお受けしました（6/2）。別の就労支援センターからも見学依頼があります。特色ある事業所として認知されつつあると筆者は感じています。
  - ・5/29 バーベキュー。詳細は別稿にあります。筆者個人的には、ある利用者さんについて「この人ずいぶん社会的になったなあ」との感慨を覚えました。
  - ・この期間中に、仕事上のクレーム案件が複数ありました。これも私たちの向き合わなければならない現実の一部です。
  - ・大正地区センターでの「食品配布会」。子ども食堂の代替として続けられ、継続して参加しています。今回も前日準備（6/12）に利用者〇さんとともに参加しました。
  - ・萌の総会が6/13、川崎中央プランナーにて開催されました。
  - ・就職活動を続けていた利用者がいます。何度も不採用の通知を受けてきましたが、ようやく決まりそうです。
  - ・残念ながら、メール便は6月末をもって終了することになりました。
- 7月から職員体制や仕事にいくつかの変更が予定されています。詳細は次号お知らせする予定です。（岡）



メール便の配布準備作業



家電品の分解

## 地域活動としての市民農園

農業は高齢化、後継者の問題は恒常的な課題として話題となっている。働いても働いても生計が立てられないという収益の問題もある。また地方農家と都市農家の違いがある。市民の農業への憧れと営農できない農家の現実との乖離。そこから生まれた都市農家のコミュニティ農業という考え方が市民農園を推進している。

障害者の地域生活支援には就労支援や生活支援があるが、障害者が地域で排除されないための地域活動がある。地域の実情に合った地域活動が必要である。



戸塚区深谷町は丘陵地帯もあり竹林も多く農業が盛んな地域であるが、市街化も進んでいて近郊都市化となりつつある。専業農家は少なく兼業農家が多いと同時に市民菜園も多い地域でもある。障害者の地域活動を考えたとき、市民農園を通しての交流が自然であった。ただ市民農園で野菜を作るだけでは物足りない。地域活動であるから顔が見える関係でないといけない。そこで、地域で生産したものを地域で消費するという農産物の地産地消の考え方を参考にしながら、対象を幅広く捉えて顔が見える関係づくりとして地域循環型地域活動を進めていこうと考えた。

難しい議論は横に置いて、地域活動としての野菜作りは、農地、農地の維持、肥料、栽培、収穫、販売という一連の流れがある。農地は農家の好意による借りることになった。有機の野菜作りを志向するので、有機の堆肥が必要となる。戸塚区では3件となった酪農家が近くあり、幸いに牛糞堆肥を譲ってくれることになった。素人の私たちに農家や市民農園の方が栽培や収穫の仕方を教えてくれる。そして販売は定期的になった大がかりのバザーの依頼、小さいバザー、新設した戸塚駅近くの事務所の前での販売、年々と評判が良くて依頼が多くなった。深谷町や原宿町などは地域のケアプラザを中心に「こども食堂」の実施や食料の提供が行われているので、野菜の提供に協力するようになった。また企業の社会活動のための依頼も出てきた。



確かに当初は地域活動をどのような在り方にするかという議論があった。その時のメンバーはいないが、地域活動は継続である。コツコツと継続していくことである。野菜づくりは6年、新しい農園で4年となる、竹林整備は6年になろうか。日本みつばちの養蜂は5年となる。自然を相手にしている以上、土曜日も日曜日も関係ない。

職員も利用者も農家も市民農園の人たちも、関わり、去り、新しい人たちと出会う。流転の中で考えていくが、継続していかないと出会うことはない。地域活動は、意識的取り組みであるが、日々の地道な取り組みが起点である。小さな取り組みであるが何かが生まれるのも確かである。

## 5月29日にバーベキューを行いました

コロナ禍での自粛はストレスを生むものです。自粛は大切ですがメンバーの精神衛生を考慮して工場内でバーベキューを行いました。飲食系のレクは参加率が高く、今回も多くの方が参加してくださいましたが、広い工場内で密にならないよう工夫し、食器やコップも自分のものを使うことを守ってコロナにかからないように楽しくできましたと思います。パレット以外の利用者さんが食材の下処理をしてくれたり、設営など率先して行ってくださいました。普段はあまり互いに会話しないメンバーが最後まで残り、普段は忙しくてなかなかゆっくり話せない話題もでて職員もリラックスできました。残ったメンバーの若い利用者さんが「關さん今度はビールを用意してください」と言っていて、特別支援学校から来た18歳も気が付けばもう24歳になります。時の流れを感じました。(關)



## パレット班で若い力を募集しています

現在いなほのパレット班は17歳～66歳までの方が働かれています。仕事は多く納期も短いなかで、いま人手が足りていません。仕事が多い理由の一つには我々B型という障害サービス施設に課せられる工賃の向上があるためです。30代の方を筆頭に40代～60代が主力となり毎日頑張っていますが、高齢に伴う肩の痛みや腰痛に悩んでいます。若い人材を育て彼らの支えとし、ゆくゆくはパレット班の主力となってもらい、最終的には企業就労することを目標としていきたいと考えています。(関)



二法差しパレット



二人で治具台での作成



バーベキュー(慰安会)



パレットへの段ボール貼り



二人で協力して打ち立てします

### 出張報告その1

パレット班では2～3年かけてパレットの技術を身に着けて、パレット会社に就職させていく試みを始めるつもりです。今まで5年、いなほでパレット作成をしフォークの免許を取り、パレット作成会社に就職した方1名、いなほで7年くらいパレットをやりパレット会社に施設外就労をし、雇用になったケース。今年度もフォークの免許を取り、パレット会社に就職が内定している方が1名います。(養護学校卒業後3年目)こういう実績の中、いなほでパレット技術を獲得し、高齢化で職人をさがしているパレット会社に就職させていくのはどうかと考えました。北関東にパレット会社の取引先があるので、群馬・栃木県の養護学校を5か所、2泊3日で訪問しました。3年くらいかけて工房いなほでパレット作成を身に着けて、また、地域に戻りパレット会社に就職するのはどうでしょうか？その間の生活支援も含めてやっていくということで……

どの養護学校も横浜は遠すぎる、保護者から見るとハードルが高い、家庭から通える所への就職や、作業所を希望されている方が圧倒的に多いとの事でした。横浜市に住居を映してまで、という希望のある方は、保護者の養育に問題があり、すでに寮などで生活されていると思うということでした。

地方はまだ「家族」(祖父母などとの同居等)などがしっかりとあること、保護者がまだ若く、親亡き後はずっと先というイメージの様です。養護学校の生活が上手く行かず、家庭でも難しいケースもあり、そういう方の支援先に行ったらどうですかとアドバイスしてくれたところもあります。

どの学校も丁寧にこちらの話を聞き、対応してくださいました。

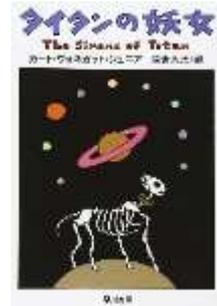
引き続きこの試みを近隣でしていくつもりです。

### 出張報告その2

昨日(6月29日)以前より交流のある埼玉のやまびこ作業所を訪れました。所沢方面に木箱のサンプルを持って行った帰りに。やまびこ作業所は一昨年豪雨被害にあい、昨年私たち同様コロナ禍に見舞われてしまいました。その間、就労継続支援A型から生活介護にかわりました。もうパレットや辞めてしまったか不安でしたが、駐車場に車を止めると、パンパンとパレットを打つ音がしてほっとしました。製品の質も私たちより高く、皆さん元気にパレットを作成していました。製紙会社用のパレットがペーパーレス化に伴い需要が減少しているとの事です。時代の流れに対応した仕事の在り方をどこも模索しています

波多江久美子記

## 私の読書 カート・ヴォネガット「タイタンの妖女」



「あらゆる人間の中に潜む真実に気づかずに、人類は外をさぐり、ひたすら外へ外へと突き進んだ。その昔、まだ魂が探測されていなかった時代、人々はどんなふうにしたのか。これから物語るのは、数年の前後はあってもほしい第二次世界大戦から第三次大不況のあいだに落ち着く、あの悪夢の時代の実話である。」

これは「タイタンの妖女」の書き出しである。読者は人類が豊かさを外に向かって探していた時代の話であることを知るわけである。また、ヴォネガットはこの時代を悪夢としている。この作品が出たのがスプートニク発射の二年後で、米ソの宇宙開発競争の皮肉になっている。しかし、これは当時の社会への皮肉だけではない。物語全体への皮肉でもある。登場人物皆が物質的な豊かさを求めていて、俗物で傲慢で、自らの目的を果たすために各々血の出るような努力をするもその目的はまた誰かの次なる目的に利用されていて、彼らは次第に翻弄されていく。この物語こそ悪夢であり、悪夢からいかにして解放されたのかという話なのである。では、ここでいう悪夢とは何なのだろうか？

この時代の人間はトラルファミアドールという宇宙人に干渉されているという設定がある。サロという名のトラルファミアドール星人が宇宙船の故障によりタイタンの地で15万年足止めを食っていた。登場人物たちのくだらない争いや滑稽な努力や、人類の営みの究極目的はサロの宇宙船に新しい部品を運ぶただそのために仕組まれたことであっただけだ。人類が宇宙を目指したのは「そうするように操られていたから」であった。人々は自由意志を持って宇宙を目指したつもりだったが、それは本当の自由ではなかった。これが悪夢である。主人公の富豪であるマラカイ・コンスタントが人類代表としてひどい操られ方をし、結果タイタンに到達することで、人類の目標は達成され人類は悪夢から解放されるのである。

しかし悪夢からの解放がこの作品の主題ではない。宇宙旅行や、在来地球人の争いをなくすために意図的に起こされた火星(前地球人)との戦争など、SF的要素を多く含むこの作品の主題は、生きる目的は何か？ということではないかと思う。主人公であるマラカイ・コンスタントは、自分の人生を死の間際に次のように結論づけている。「人生の目的は、どこかの誰かがそれを操っているにしろ、手近にいて愛されるのを待っている人を愛すことだ」これが愛の無い前半生を送ってきたマラカイ・コンスタントの口から述べられるが、これこそがこの作品の主題なのではないかと思う。

この作品では、人間が生きる意味など何もないのだと言っているように感じられる。しかし、「考えるだけ無駄だ」と言うわけでもない。たとえ誰かの運命のための駒として翻弄されていたとしても、むしろそれこそ価値があることであり、人間が己の目的のみに邁進して誰からも利用されず、交わらず単一の点として存在することのほうが寂しいことであると言っている気がする。私がこの「タイタンの妖女」を始めて読んだのは大学生の頃だったが、それまでの自分は、自分がどう思い、どう行動するかしか関心がなかった。それを遂行し貫徹する能力が人間の価値の大きな部分だと感じていた。恥ずかしながら運命は自分である程度決められると高を括っていたところもある。しかし実際のところ運命はそれほど選べない。自らの目的とは自由意志という名の思い込みや刷り込みであり、それよりも置かれた環境の、必要とされる状況と声に自分を近づけていく。環境が自分の価値を決めてくれるものだと思うようになった。(關)

## 就労支援

昨年度は1名も就労者を出せなかった。今年度ようやく1名の利用者が一般就労する。あしかけ6か月就労活動をやっている。書類選考で落ちたり、面接で落ちたり、実習まで言ったが落ちたり・いろいろあった。落ち込みもあっただろうが、ご本人が粘った。コロナ禍で求人が清掃しなくなったり、道のりは険しいものがあった。50歳という年齢を考えると最後のチャンスにも思え、最後こちらも熱が入った。

就職探しは過去の自分と向き合い、以前の就労先をなぜ辞めざるをえなかったか？自分の精神症状の再発サインを自分で理解できるか？これから人生をどう生きていきたいか？という問いかけを共にしていく道のりであると思う。

どうしていくかは己自身の問題である。これから良い人生が待ち受けているということではなく、良い人生にしていくのは自分の問題である。

定着の支援もしっかりとしていきたいと考えている。

社会に出る、一般就職する・・・そういう滞留のない工房いなほでありたい。



## 編集後記

オリンピックがいよいよ開催されるようだ。オリンピックの開催は無理だと考えている人も多い。しかし、一方スポーツマンが今までいかに頑張ってきているかが報道されて、もうオリンピックありきがありありと見える。復興五輪がコロナに打ち勝つ五輪になり、いつのまにか予定通り。なんだか、へんだな。

なかったはずの赤木ファイルがやはり存在して、改ざんをさせた役人はまだ黒塗りされている。奥さんのインタビューを見るにつけ、この国が憎くなる。

みなさんニュース見てますか？聞いていますか？蚊帳の外はなしですよ。

(所長)